

出題分析			
試験時間	60分	配点	100点
		大問数	3題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
【概評】 問題の分量は、空所補充が60問から59問に減少し、短答記述問題・短文論述問題も微減したが、おおむね同程度といえる。難易度としては、一部で難問も見られたが、昨年同様に解きやすい問題が並んだ。出題内容は、ここ数年出題が続く先史～現代まで広い範囲が扱われた。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	税制の歴史	問1 (1) (2), 庸は絹や麻で納入された。綿での納税が認められた調と混同しないように注意したい。(5) (6), 一条鞭法は、浙江省など江南から始まり、全国に広がった。(23) (24), 清はアヘン戦争後の1842年に南京条約でイギリスと講和したが、さらに翌年虎門寨追加条約でイギリスに片務的最恵国待遇を認め、関税自主権も喪失した。(35) (36) EFTAは、1958年に結成されたEECに対抗して1960年にイギリスを中心に組織された。なお、EFTAは経済学部でも出題された。	やや易
II	女性史	問1 (53) (54)の救貧法はやや難。エリザベス1世は救貧法を制定し、困り込みで土地を失いロンドンに流入していた貧民救済を図った。(69) (70), 社会民主党左派のローザ・ルクセンブルクは1919年にベルリンで蜂起したが、殺害された。(71) (72)「アヴィニヨンの娘たち」を知らなくても「キュビズムを発展させた」という部分でピカソと判断できる。(73) (74)・(75) (76)女性参政権関係は頻出事項であり、押さえておきたい。(81) (82)のマララ・ユスフザイは難だが、帝国書院の教科書には写真入りで紹介されている。	標準

設問別講評			
III	土地所有の世界史	問1 (83) (84)・(85) (86), 先史の問題はここ数年必ず出題されている。問い方は異なるが1万年前を聞く問題は昨年も出題された。最終氷期が終わり, 農耕・牧畜が始まった時期は人類史における画期として非常に重要である。(95) (96), やや盲点だったかもしれないが, 問3の(ロ)にも見られるグーツヘルシャフトがエルベ川以東で輸出用穀物の生産を行っていたことを想起できれば迷わないだろう。問4, 州名の判別が難しく難問。テネシーやサウスカロライナを覚えていた世界史受験生はごく少数と思われる。Aはグラフ上に1839年以降, 1849年以前から現れているので, 1845年にアメリカに併合されたテキサスだと判断できる。また同様にBは1803年にフランスから買収した地域を中心とした州であるルイジアナであるとわかる。CとDの区別は難しいが, 独立13州に含まれ大西洋沿いのサウスカロライナの方が綿花栽培の発展が早かっただろうと推測したい。綿花の栽培拡大が西漸傾向にあったことを知っていれば判断の参考になっただろう。	やや難

合格のための学習法

教科書と用語集を軸とした正攻法の学習で十分合格点は狙える。空欄補充問題は例年難易度のやや高い問題も見られるが, 多くを占めるのは基本的な問題なので, 知識を固めておこう。年度ごとの難易度に関きがあるので難易度が高い年の過去問にもしっかり取り組みたい。また短文論述問題については, 語句の内容説明を中心に理由説明, 本文の内容を踏まえた説明など, 年によって論述内容は様々である。例年は字数が問題の要求に対し少なめに設定されているので, 解答を要領よくまとめる訓練が効果的だろう。全体の傾向として, 世界史上の交易や国際経済についての設問がみられるので, 中世から現代までの世界経済の動向を長期的な視野で学習しておきたい。